

婦人関係資料第三五号（一九五二年三月）

市民社会における婦人の機会と責任

労働省婦人少年局

婦人少年局長野職員室

は し が き

家庭生活の向上を目的とする米國の婦人協会
 (Woman's Foundation, Inc.) では、一九
 四五年初頭にいくつかの委員会を任命して、家庭生
 活の各分野の問題についての研究と提申を行わせた。
 本局はその委員会の一つである、Committee
 on Citizenship in the Home の報
 告書を発表したものである。

労働省婦人少年局

一九五一年三月

目 次

婦人は市民的関心を持っているだろうか.....	3
何故婦人が政府や政治に参加しなけれは ならないか.....	4
困難は何か.....	7
何故に参加すべきか.....	11
何をなすべきか.....	14

市民社會における婦人の機會と責任

——シテイズンシップ委員會報告書——

へ米國婦人協会 (一九四五年)

(2) ◎ 委員会委員

議長國——カルフォニア大学校長 スパウール博士
コルゲイト大学前校長 若原孝カトン博士
シーズンダット氏リッペンダチ前市長 余議士 ハ
ミルトン 郡政治連盟長 全国市政連盟前会長「ア
メリカに於ける地方自治」の提議と機会」その
他の著者
フィッシャー夫人「シラキニーズ大学 公民科 政
治学助教授」ここでは婦人の責任という面を担当
する
デイヴィッドソン氏リステファン大学職員 ところでは
市民性の訓練に關する研究を行ふ
モリソン氏リテクサス州民自衛隊
ウアンダビルト氏リアメリカ兵衛士協会前会長 ニ
ニューヨーク大学政治学部長、エセックス郡共和連
盟長 アメリカ市教育会前議長
ワナー夫人「民自衛隊」アメリカ親善協会前会計
ウエハワザー夫人「セントポール民自衛隊」アメリカ
赤十字会、兵衛金等政治的に活躍
ウィルロビー氏「全国市政連盟実行委員

◎ 婦人市民憲章

- 婦人市民は——
- 一 地域社会と国家の福祉に關心を持つ
 - 二 地方及び国家の内部より理解してゐる
 - 三 家庭と社会に對する責任を遂行せんとする
 - 四 有能な婦人市民であるためには次の知識が必要である
 - 一 責任ある市民として、アメリカ立憲民主主義の理
想を理解しようとする
 - 二 知立宣言や憲法の上の右立憲民主主義上の重要文
書の意味を理解する
 - 三 我國民上の大人物及び彼等が責務した義務を知つ
てゐる
 - 四 政府の行はらるゝその組織及び機能を知らせてゐる
 - 五 地方政府、又は連邦議會や州議會に自分が選出し
た代表の業績を知つてゐる
 - 六 時事問題、警察の職務、國內及び國際的動向に關
する新しい知識を持つてゐる
 - 七 地域社会、州及び國家の政治に「影響」が及ぶべき氣
附く
- 有能な婦人市民であるためには次の行動が必要である、
- 一 市民として常に働くこと、競走することによつて知
識を振起す
 - 二 クラフや研究會で公共の自衛に参加し討論を廣にす
 - 三 子弟の教育及び進歩にまことと投資する
 - 四 政治の實現を目的とする政黨又は無黨派グループに
加つて活動する
 - 五 法を尊重し、民主的規則をまじやうめんにする
 - 六 家庭生活に於てよい市民として行動し、實例と訓例によつ
てよりよい市民性の訓練と努力する教會、學校その他の
地域社会の諸機関に好意と協力を示す

二の外

市民社会に於ける婦人の機会と責任

婦人は市民的關心を持つてゐるだらうか——

民主的社會では國家の消長は人民自身にかかつてい
る。今アメリカは國の存在を脅かす脅威に切り取
けて来た誇りである、そしてこの危機により我々は
男も女も共同の福祉への忠誠を新に呼び起された。戦
争の挑戦に答へたと同じ心がかまえて、我々は平和の挑
戦に應ずる事が出来るであらうか？ 史上最大の勢力
の一つとしてアメリカは戦争から立ち上りつつある、
今や我々に與つた課題は「我々はこの勢力と影響
力を如何に使うべきか」ということである。

(3) 夫るや五十年に世界の他國民より要求される重荷に十
分応じ得る程我々國內のデモクラシーは強力であらう
か？ 特にアメリカ婦人は戦時に示した忠誠と努力の
心慮を平和に於ても持ちつづける程、市民的關心を
持つてゐるであらうか？ これらはアメリカ市民た
る我々のすべてが直面してゐる問題である、殊に婦人
は、男よりも市民としての役割が新しいといふ意味
に於て、デモクラシー運営の事業に全面的参加を求め
られてゐる事を感ぜなければならぬ。一九四四年の
全国調査では、男は百人中七十八人が投票してゐる

にも拘らず、婦人は百人中六十八人しか投票してゐ
ない。その故のことも、例えは地方政治に必要左
改革のために外に出て活動するといふような事に左
ると、婦人が彼女の兄弟や夫に選取を取るのとは殆ど
おままりになつてゐる。市民クラブに加入はするが
至極ある婦人指導者は皆知つてゐるよう、確然と
討論だけに満足して實際活動からは尻ひきするとい
うのが女性共黨の弱點である。

それは女性が生れつゝ國や地域社会の福祉に男子
より無關心であるためだらうか？ それとも単に民
主的成長の過渡期的現象に過ぎないであらうか？
好んて云つてもアメリカ婦人が参政権を得てからま
だ二十五年しか経つてゐないのだ。しかるに男子は
この権利を百年以上も享有して来た。婦人はまだこ
の仕事に少しばかり不慣れである、だから先ず第一に
何故政府や政治に關心を持たねばならぬか、第二
に自分は何をすべきことが出来るか、そして最後に如
くわかつてゐる場合には、婦人は必ず見事な仕事と
してゐる。

例えはシンシナチの婦人である。この市では婦人は治癒に市会マネジャープランのための後援運動をした。遂にプランが採用されると、今度は団体組織として、一年一年一區劃一區劃と政治的仕事の手を動かす。改革グループに属する候補者を当選させるために努力した。シンシナチの姉市長及び市のマネジャ―は口を揃えて、もし婦人の力がなかったらば、シンシナチの市会マネジャ―政治のすばらしい業績は決して見られなかったであろうと認めた。

何故婦人が政府や政治に参加しなけれはならぬか

婦人は家庭と家族はより大々な発展と幸福を導く事業に於いては、常に全体的な協力を精進してきた。しかし今日の社会組織の下では、家庭や宗教の運命も、地域社会や国や、立くは、世界の動向によつて決定的の影響をこうする。例えは市や郡が腐敗した、或は非能率な指導政党の喰物になつてゐる時、家庭によつて市民精神を育てるのは進んだ。子供が母から正直とか賢いお金の使い方等を教つても市町村に打ち込まれる收賄や公金浪費のお手本を見せつけられては、一体この二つをどう片断をくろむ

ひきこもりが出現する。或は国家即ち国家の組織から見て、母が息子のためによい家庭をつくらうと良心的に精進したところ、世間大義がきつて定期助にやつてきて、息子が成年に達するや否やさうつまいかれるのでは、一紙何れに精進の甲斐があるのか。それ故に、よりよい政治、より賢明な政策のために婦人が働くということは、先ず第一に彼女の家族と家庭を守つてゐることに在るのである。第二にも、婦人が地域社会の向題に積極的に参加するならば、この实例によつて彼女が子孫が積極的的市民になるように励ますことが出来る。母を生活した实例として持つてゐる息子や娘は、人々が自由幸福に力を合せて生きてゐる社会を維持するため積極的責任をとりとする。であろう。すべての母が知るやうに、子供というものは教育より実例に影響されやすいものである。民主政治に積極的市民として参加することの必要をいくら学校で説いても、もし子供が家庭で实例によつてこの大切なレッスンを學んでゐないならば、馬の耳に念仏である。

第三に市民活動に積極的に参加して改めれば、それが思つたよりずっと面白く愉快なものであることを婦人は見出すであろう。成程、これは佳報もある。

失望もあるには違ひない。しかし同時に報酬もありそれに伴う大きな利益がある。積極的に市民活動をする婦人は、自分が「車輪の回転」を助けてゐるという満足感を持つ。彼女は深山の異人々に会い、新しい友や知人を持つて、生活に新しい興味を見出す。そして彼女は自分が社会生活の一部であるという「所属感」を持つてゐる。

最後に彼女には、自由政治の民主的原理を守るため活動してゐるという満足感を得るであろう。「平和時の愛国心は戦時の愛国心より強い」といふことがよく云われる。アメリカの民主主義者は、結局市町村や州や国の市民政治の生活に市民が積極的に参加することによつて維持されなければならぬ。

そしてその参加は効果的なものにするためには、市民は知識をもつてゐる計りでなく、自ら進んで行動し、自分、如何に行動するかを知つてゐなければならぬ。我々市民教育の一大柱は事實を知ることである。其の必要を強調しすぎて、實際に賢明な行動をする能力の不足をいふに及ばない。婦人はよく知つてゐる。その知識が何らかの行動を導き出さなければならぬ無意味である。いふ所の類は心の中心にまつてゐる婦人は自分より教が深いであろう。彼女たちはよい

政治を欲してゐるに違ひない。しかしそれを實現させるためには如何にすべきか、いふのはあるまいか。正しく能率的な民主政治は、實際に行動し、自分の願望を行動で裏づける人々の努力によつてのみ達成される。

よい政治——殊に自分達の市町村の——はどんな意思を有するかを思慮深く吟味すれば、行動への強い意欲が呼び起されるはずである。市民としての責任を全うするためには努力に對しては数々の報酬がある。その中には家族の福祉や、家庭の生活水準に直接影響を及ぼすものも深山ある。市や郡からよく統治されてゐるときに、婦人の期待出来る恩恵は、其の幾分かといふものであろうか。

一 子供達が教育のよりよい機会を持つ。一般によい地方政治はよりよい教育を意味する。納税者の税金は、不必要な政治的ぐくつがしを暮らかわりによい先生を雇ひ、設備を充実し、施設を改善するための使われる。この地域社会では税金の行方について人々がいろいろ注文を述べることが出来る。

二 家族がよりよい健康の保護を受ける。つまり統治されてゐる地域社会では多くの診療所を設け、マ―ケットや公衆食堂の検査をとし、行い、清潔な飲用水を供給し、貧民のための保健対策を講ずる。

児童診療所が少いことは、幼児死亡率の低い事を意味し、住宅管理法がすぐれていることは病気が少いことを意味する。

三、子供達が多くの運動場とよい娯楽施設を持つ。その地域の民主的感情を反映させて、税金の一部はこれらのものにふりあてられるだろう。

四、家庭がより安全になる。能率的な警察が暴走をなくす。又火災による損失と消防署の能率とは密接な関係があるものである。

五、その地域社会で正しい原理が行われていることを子供が見る場合には、母は子供に正直とか高潔とかをずっと容易に教えられる。反対に、子供が市町村の政治的腐敗や不正のお手本を見せられている時には、子供が自分の道徳的基準を形成する上に於て、このような条件が、母の試みる性格形成の努力よりも強い影響を及ぼすだろう。

六、家庭が毎日の仕事に出掛けるのがたやすく便利になる。よい地方政治は通常よい舗装道路、よい運輸機関、よい公共施設、よい交通計画と規則を意味する。

七、家庭と家族が経済的に安定する。よく統治された地域社会は商工業を誘惹し、それ故に家族のパンを稼ぐ人々に確実な就職口を供給する。失業率も

困難は何か？

市民としての全責任を肩負うに努め始める時、婦人は種々の困難にぶつかるとある。自分が女であり、

女性は伝統的にせういう市民的責任を担うて来なかつたと思ふ事によつて彼女自身の心の中心にまず困難が創られる事もある。最近まで女性は政治生活に積極的参加をした事はないからである。

家庭の経済的圧迫や家族の人々の反対で困難が起る事もある。また、

最後に、婦人の政治的行動が男子の場合より困難にさらされ、地域社会全体の態度や政治生活の複雑性から困難が加わる事もある。しかしこれらの困難は、いかに重大なものだろうか？ 一般の婦人はそのために勇氣を喪失してしまふやまだだろうか？

ここでこれらの困難を検討してみよう。

一、個人の責任は？ 政治的困難 政治的分野は男

子の受持ちという固定した考えをそのまゝ受け入れて政治に関係しな一級婦人が多い。中には政治は

会社や従業員が公正な税率と公共資金の税金を支出の恩恵に浴する事が出来る地域に根を下せようとする。

八、家庭が高い生活程度と、美しい環境を欲しむことが出来る。よい地方政治は通常納税者が少い税を納め、その代償として家山のよいサービスを受けることを意味する。そのどちらも家庭の主婦としての家族に高い生活程度を齎してくる。

九、最後に、民主主義の原理が真に行われ、そのために各市民がなくてはならぬ役割を演じている地域社会に柱立てている事を、知って、家族の首をながめ満足を感じる。

よいシティズンシップをこのように明確具体的な言葉であらわす事は、女性がシティズンシップに基本的な興味を持つて居る事は疑いない。女性はよい政治に利害関係をもち、聰明な女性は勿論よい政治の約束する恩恵に深い関心を抱いて居る。只彼女が心に留めておかななくてはならないのは、それらの恩恵は、彼女と同様他の人々と共に、彼女の責任を果すことによつてのみ得られるのだという事である。單なる願望や、政治理論を二ねることだけでは恩恵は得られない。

女らしくない不愉快な労働への参加を拒否するものだと

と思つて居る人々もある。多くの婦人が政治を

社会的に女性には不向きなものと考えて居る。

一部の婦人は、よい政治はどんな具体的な報酬を与えるか、自分の積極的参加がそれを実現するため如何に役立つかを示されればすぐにこの種のちがうちをふり捨てることのできる。しかし地域社会の市民的政治的将来を決定する上での自己の機会と責任に無自覚な婦人はまだ一山ある。いわゆる「文化活動」を支持することは勿論その限りに於ては、事である。しかしよい政治を積極的助長するといふより地域をよきより大事に仕事を怠る事がそれによつて正当化されるわけにはいかない。アメリカの投票権人口の五十一パーセントが女性であること、

と、選挙の投票者の六十五パーセントが女性であること、後者の州では選挙の八十五パーセントが女性の手で集中されている事を知るならば、婦人たちが自分のこの方面の責任により大まかに自覚を持つて居るない。

友達である。婦人が地域社会自体の改善に逆戻心を
 抱いて始めて、彼女が手帳に抱いてる理想は知力を
 養ふのである。何故なら手帳の生活は、右にあ
 るべき影響や、彼女がその一部である地域社会の
 道徳的水準によつて形成されるからである。手帳
 は彼女の家庭内が市民の責任が果されていくのを見
 て始めて、よい市民精神の重寶を心から信する
 のである。市民精神の教育においては、美辞麗句は
 実用、適用に比し遙かに効果が薄い。

このように見ると、家庭的条件には多くの婦人が種
 種、種々の市民になるのを妨げている幾多の
 困難があることが分る。それらはあまりにも大きく
 のしかつていて、時にはどうにもならない感じさ
 え起させる。しかし地域社会の市民性の問題に対す
 る根本的興味や関心を欠いていくという第一の危険
 に比べれば、それ程重大ではない。

三 地域社会の状況による困難

地域社会の影響が時に婦人が積極的、政治生活
 に参加する事を妨げるときは、友人や隣人も、市民意

識を持つ婦人の動機を理解せず、他人の生活に興味
 を持つおどろきかきとし、一々批難した。地方政治の
 指導者も、政党のする事にあまり好奇心を示す婦人
 には水を掛けるような態度であつた。又政党政治の積
 弊性は、特に参加したこの数層では、批判感を与え
 る事かしばしばである。

しかし今日では、これらの困難の大部分は消失し
 たが、薄れゆく兆しを見せている。この社会的態度
 の改善は、まさに婦人自身がこの分野をなして、元
 寄手になり、今では婦人がよい政治の
 態に活動することは、友人や知人に對して不愉快で
 あるどころか、信望を得ることであり、又大きな自
 己満足を与えるようになりつゝある。政治的団体も
 政治活動に興味を持ち協力を申し出る婦人を参加せ
 ることが原則になつた。賢明に投票する事、地方や
 県の政治機能を理解する事、更に改善の必要を指摘
 を見定める事、を容易にするための各種の改革が行
 われる時には婦人自身も一役うけもつた。

結局のところ今日婦人が自己の市民的責任を全う
 して、自分や家族のためによりよい地域社会を建設
 する仕事に活動に賢明に参加しを急いという理想は

何処にもない。婦人の努力と寄手は痛切に要求され
 ている。何をしなければならぬか、それは如何に、
 効果的になすべきかを見出すことは、婦人が自己に
 家族に、地域社会に、そして國に負う義務である。

如何に参入すべきか

まず地方地域社会から始めるべきである。我々の
 政治制度の根はこゝに下されている。我々の町や村
 で起る政治的、行政的事が州や國で起る事を決定する。
 しかも各郡政界におけるアメリカの重要でないとい
 へば、まじつゝある事を考えるならば、個々の地域社会
 に起ることは間接に世界のものに起る事を決定し
 ているといえよう。我々の民主的自治政治が栄養を
 吸収するのは地域社会からであり、個々の市民の努
 りが最も重要であるのも地域社会である。
 この努力は協力的なものであれば、大きな結
 果を齎す。それ故婦人が積極的、市民としての役
 割を演じようとするときには、同じ愛持の心と協力
 して働くようにすれば、よく行くものである。

一、政党、先づ第一に政党である。それはいや
 に複雑で扱いにくく、見えるが、政党の最小単位は近
 隣のレベル——地区委員会である。この委員会は地
 区委員長、又はリリーターに率いられて、リリーターは自
 分だけで、或は他の人々との協力によつて、党政
 のため、又は公共の役員に候補者を立てる上に、こ
 の地区はどんな役を演ずべきかを決定する。多くの
 婦人が（男子について同様であるが）選挙の時立
 てられられた候補者に不満を持つ。しかしこの人た
 ちは予備選挙の時よい候補者を選ぶために殆ど何も
 してない。何お悪いのは、彼等の考えと理想を具
 に代表する筆の地区委員長の選挙にさえ無関心であ
 る事だ。全く地区委員長の名を知つていゝ人すらこ
 く僅かという始末である。

実際に婦人が党内の力を持つのは難しいことだ
 はない。例えば地区予選や地区委員長選挙に現われ
 た数字を見るがよい。表れた程少数の人々参加し
 ていない。三、五パーセントに上らない事すらあ
 る。長たしい小規模規定で、とても自治とは云えない。

こういう実情であるからより意図を持つた男社
 のグループによつて委員長候補者をさめ、協力

「りたい」という願望からではなく、はつきりした欠陥、不正を正そうという決心から生れるべきである。地方団体は使命と明確なプログラムを持つた、なければならない。さもなければ長続きする見込みはない。そういう地方グループに情報と援助を喜んで与える全国的団体はいくらもある。

適当な地方団体が存在せず、新に結成するよう促された必要もない時でも、きまつた形式は取らないが、それに沿らず効果的な仕事はいろいろある。新聞の編輯者に宛てた手紙から種々の建設的行動が生れてくる。市長、市政マネジャー議員との相公証にある人々は公衆の批判や疑問に對して敏感なものである。被害のうちの一人にあてた手紙、個人のものをかりにしろ、近隣グループ、からうのがあるにしろ、によつて、二、三取りの迅速化、道路の修繕、街燈の改良、監察の能率増進、その他の改善が実行された例は無数にある。たつた一人の伯人といえども決して無力ではない。

地域社会がその全當に於いて完全無欠でない限り、この種の活動の機会はいくらでもある。うるやい世話やきとして有名になる危険は、事實をばつち

りと辨え、自己の目的の重要性に確信を持つことによつて避けられる。しかし乍らもしさけられぬにしてもこの危険は、公共問題處理に興味を持ち、責任の一半を擔うことによつて達成出来る利益に比べれば問題がない。責任ある市民は、非難に屈して自己の義務をゆるがせにする事はないであろう。

何をなすべきか

理論的にはどんなに我々の民主的政治形態に誇りを持つていても、実行となると小く思ひ勝ちなものである。デモクラシーの一大長所はそれを実行することによつて人民の意思が成長し進歩するということである。それは、市民連の改良の知能を表現させようとする営みである。地域社会や口には落ち着いた判断を必要とするような問題が始終あるものである。多量に変化する問題は絶えずいろいろな改善の必要を告げる。勿論その必要は各地域社会毎に異なるが、いやしくもよい市民性に関心を持つ婦人は、自分の地域社会特有の必要を知り、政治機能の改善をめざす運動を支持すべきである。

心から興味を持つ人々のために、多くの地域社会に是非とも必要なる事の数を次に挙げてよう。

一 地方自治や地方的問題は州や国の政治から徹底的に切り離されるべきである。あまりにもしばしば地方的問題の決定や、地方議員の選挙が、全国的政党の投票とか加盟とかを基準にして行われ、個人としての功績が考慮されてはいない。

二 市や郡は評議会のきめた固く守る規則から開放されるべきである。地方的小地区自身の規則を獲得し、保つために憲法を改正しなければならぬ。

三 政党内部の最大の敵、メリット・システムが憲法の承認によつて確立されなければならぬ。そして公衆の支持と主張によつて、効果的な機能を發揮出来るよう十人の経費を支えられなければならない。民主的な選挙制度のためにつくられた他のいろいろな制度と同様に、メリット・システムもそれを支えるようとする強い感情と、伯人の実績に基く選挙や任期間の保障に對する絶えざる主張がない時は、歪められ、悪用される危険がある。

四 投票用紙の形式は大切な問題である。婦人は意見が正しく表明されるような形式を主張しな

選挙には無党派の投票が行われなければならない。マサチューセッツ投票用紙又は投票用投票用紙は、政党別投票用紙よりも、特定の投票に對してはいく候補者を選ぶに便利である。教員、教員や競争者、ごつちやに含められたら大に投票用紙は無意味なものと出しやすい。小形の投票用紙は政治改善のためによい判例となる。比例代表選出の際のヘア・システムは眞剣に学ばなければならぬ。今迄に用いられた地方選挙では非難の的となつたのだから、

五 都市及び郡の憲章が新しい状態や要求にふじ得るよう常に近代化のものにするための努力が拂われなければならない。

六 政治や市民性に関する学校教育がもつと實際的な性格を持つよう婦人は主張すべきである。現在行われているところでは、市民性に関する授業は大抵理論的、哲學的、抽象的で退屈である。

七 選挙方法が改良されるべきである。多くの土地で不正選挙がはびこり、選挙民の意思が投票数のインテリゲンチヤが勘定や記入によつて裏切られてくる。選挙は、政党の指定人よりもメリット・システムの運用

家によつて管理するべきである。多くの土地で、選挙手帳が政党の手に握られてゐるため、無所属の候補者は予備選挙で勝つことが殆ど不可能な状態である。

八、州や郡の政治形態が、憲法や行政規則の改正を媒介として修正されるべきである。州や郡の政治組織はしばしば古い昔の延長である事がある。こういうものは近代的要求を充つ事が出来ないのである。

九、各地方に、独立無党派のしつかりした事実調査機関がなければならぬ。そしてそれらの機関は事実を調査する以上の事はすべきでない。見付かつた事実から何らかの結果を引出す事には寛容すべきでない。しかし市民は政治活動の海に乗り出す前に、劣化や改善を指摘する基礎となる事実を持つていなければならぬ。

一〇、よい政治をめぐす諸機関を集めた地方協議会が必要である。さもないと、既に分つてゐる情報を得るために、研究や努力の重複、不必要な浪費が起るかも知れない。これら諸機関の連合協議会による行動は個別的努力を統合し、かつ効果的である。個別的努力の統一調整は彼等の力と影響を倍加する。

一一、政党には腐敗なく、人格と能力を基準としてよい裁判官を得、採つ事に努めなければならぬ。裁判官が選挙されるべきか指名されるべきか、期間はどうあれ、又はミズリ州のように選挙と指名を結合した方法で選ぶかといふような事は重要な研究テーマである。いずれにしても司法官は政治的官職ではない。

一二、地方的な、或は更に小さい地域的な計画と区域分けが、秩序的な地域社会運営には欠くことの出来ないものである。計画、区域分けに関する諸機関の支持もまた不可欠である。

一三、個人が監督員としてのサーヴィスから除外されてゐる場合、或は在職者のみがそれを許されてゐる場合には、男子同様婦人も監督員としてのサーヴィスに携わらなくてはならぬ。個人が監督員になる事を求められてゐる州では、その責任を担ふべきである。それは市民としての義務を義務であるのみならず、司法的手帳の力に依つて勉強するよい手段である。

一四、最後の、そして非常に大切な事は、デモクラシーの理想と価値についての永続的な教育である。地方自治の重要さと価値に対する一般の理解がよい

いよ高まらねばならぬ。この理解なくしては、よい政治のための努力は一時の努力にとどまる。とならう。地方自治が民主的機構の基礎であることデモクラシーが安全であるためには、それはすべての地域社会で実行され、腐敗や欠陥に攻撃をこらむる余地を残さなければならぬ。悪い政党地方指導機関がはびこる事はデモクラシーへの脅威であることデモクラシーの目的を達成するためには、選挙民の意思が表現され、人民の代表者が尊敬を受けるべきこと——これらの確信がよい市民の良心に刻みつけられねばならぬ。人々がこれらの確信を得るため、又これらの理解を持ちつづけるためには、永続的な教育計画が必要である。そのような計画は、その計画の重要性を認識してゐる市民達の鋭い関心と積極的参加によつてのみ保証されるであらう。